

令和4年度第1回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和4年6月16日(木) 14:00～16:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、一条委員、守屋委員、大坂委員、児玉委員、安部委員、伊藤委員
- 4 検討結果

現状は、スギ原木は合板工場や製材工場において概ね一定量以上の原木在庫が確保されており、総じて入荷が消費を上回る状況にある。製材品については需要の落ち込みや価格の弱気配が見られ始め、一部製品では欧州材の供給不安から仮需があったものの実需が動かない状況であった。カラマツ原木はロシア産単板の輸入禁止措置による影響などから依然として需要に対する供給量が不足しており、引き合いの強い状況が続いている。また、ブランド材規格の原木については、5月の名古屋官材にて好調な売れ行きを見せ、高品質材を適所において活用する意味でも今後への期待が寄せられている。価格面においては、総じて原木価格が高値となっている中で、山元への利益還元にも期待がされている。

以上のことから、国有林に対しては、「スギについては立木価格や原木価格の下落につながることをないよう、木材の需給動向や市況を踏まえた供給に取り組むとともに、カラマツについては市場へ安定的かつ早期の供給をお願いする。また高品質ブランド材は高品質な原木が減少する中で市場へ安定的に供給することが重要なことから、しっかり取り組むよう併せて求める。」と報告する。
- 5 主な意見
 - 2月以降、素材生産業者及び森林組合の多くが自山の伐採に入ったことで、素材の出材量は好調である。今後は、例年通り6月以降造林・保育・生産請負等の作業に移行するため、出材量は減少し、販売量や各工場の在庫量も減少すると見込まれる。また、これから虫害期を迎えるため、国有林におかれては、生産された原木については被害を避けるため早期の販売をお願いしたい。
 - 製紙用広葉樹原木の入荷量は減少の一途。夏場に玉切れが見込まれており、減産が必至の状況だが、有効な手立てがない。燃料用原木の需要は安定しているが、供給は不足気味。在庫は十分確保できている。集成材については製品価格は横ばいで推移している。今後も集成材の需要に大きな変化は無いと思われるが、国産材の引き合いが強まっている状況の中、増産することができるかが課題になると考える。
 - 素材出荷量は大型工場の在庫確保が進み、スギについては一段落している。一方、カラマツは引き合いが強く、供給不足となっている。国有林には、立木販売等における発注の前倒しや発注量の増といった対応について大変感謝している。東北地区

は国有林比率が高く、国有林からの出材が市場供給に与える影響が大きいので、迅速かつ柔軟な対応をお願いしたい。また、工場の設備投資や高性能林業機械の導入を促進し、林業成長産業化につなげるためにも、材価の高値安定の維持を期待する。

- 地場の材木店や工務店では仕事が薄く、素材・製材品ともに在庫不足の声は聞こえない。価格については、素材ではバイオマス発電用針葉樹丸太、製品では合板製品を中心に値上がり基調となっている。林野庁の事業については、申請に係る事務作業が複雑であり、それを理由に敬遠する向きもあるため、より簡単な形になるよう検討していただきたい。
- 製品については、スギKD 構造材や羽柄材の動きが活発になってきている。各製材工場は原木を確保しており、現段階での原木不足の話は聞こえない。価格は原木価格、構造材製品価格ともに高止まりしている。国有林の政策について、今年度から高品質ブランド材規格が新たに制定されたことにより、高齢級の材をより適材適所で活用できるようになることを期待している。
- 輸入材については円安、フレート高で全般的に価格の高騰が継続している。ロシア産の単板禁輸の影響や米材の旺盛な国内需要等から輸出に向けられる材が限定的となっている。輸出用原木については製材・合板向け価格との値差が広がっており、最近では様子見傾向にあるが、今後円安の進行により価格競争力が向上すると予想される。また、今後ロシア産単板を使用して中国製品が大量に日本国内に流入することが予想され、マーケットへの影響を注視していく必要がある。
- 住宅需要が伸びない中で各製材工場は多くの在庫を抱えており、軒並み当用買いに徹している。当面は実需が回復する見込みも無いため、林野庁には住宅の喚起策等、川下対策にも力を入れていただきたい。また、人材が確保できずに素材生産量が思うように増やせない事業体も多いことから、ヒトに対しての補助が欲しいと考えている。
- 最近の素材・製材品価格の推移を見ると、非常に変化の大きい期間であったことが実感される。また、それには新型コロナウイルス感染症やロシア・ウクライナ問題等様々な要素が関連しており、この先の見通しについても極めて不透明な状況であるということが理解される。